

一宮市 戦国武将マップ

郷土の戦国武将
ゆかりの地を訪ねる

5 しょう とく じ 聖徳寺跡



富田字大堀

大寺院であった聖徳寺は、戦国期に移動を繰り返しながらも、一向宗の有力寺院として栄えた。美濃国主斎藤道三と織田信長の会見は、富田聖徳寺で行われたと推定されている。聖徳寺は、美濃の大浦(現羽島市正木町)にあったが、洪水等による度々の移転の後、ここへ移ったとされる。

7 かじかわたか もり 梶川高盛公宅の碑



奥町字貴船
(貴船神社境内)

梶川高盛は、高秀の子で、父とともに奥村(現在の奥町)へ移ったと思われる。天正元年(1573)、高盛は織田信長に従い、足利義昭が籠もる横島城(京都府宇治市)攻めに加わる。その際、宇治川で先陣を果たし、信長から馬を下賜されたという。

9 の ぶ 野府城跡



開明字城堀
(開明小学校内)

戦国期の城跡で織田信長の弟、織田九郎信治の居城と伝えられる。天保12年(1841)の野府村絵図にも城跡が記され、現在の「東郭」「西郭」「雲閑寺郭」などの地名は、野府城の遺称と思われる。石碑は、小学校南門横の体育館脇にあるため、見学の際は関係者の了承を得ること。

11 ほう れん じ 法蓮寺



木曽川町黒田字
勘治西

本堂裏側に、黒田城主山内盛豊(一豊の父)と、その長男十郎の墓石が建つ。弘治3年(1557)、信長勢によるものか、黒田城は夜襲を受け、盛豊は負傷し(討死とも)、城は落ちた。十郎は戦死を遂げ、三男一豊は母らとともに岩倉城へ逃げ落ちた。

6 おく 奥城跡



奥町字下口西
(奥町西保育園内)

織田信長・信雄に仕えた梶川高盛の居城。小牧長久手合戦では、信長の弟中根信照を迎え入れ奥城に籠もるが、羽柴(後の豊臣)秀吉の大軍を前に城を開いた。秀吉は、城将が主家筋の人物であることから助命し、城兵全員の退城を許したものと推定される。見学の際は、関係者に了承を得ること。

8 おくむらなが とみ 奥村永福公出生地の碑



奥町字貴船
(貴船神社境内)

天正12年(1584)、越中の佐々成政は、前田利家が治める加賀・能登へ侵攻し、守将奥村永福が抛る末森城を攻め立てた。籠城軍は頑強に抵抗し、ついには利家本軍の来援を得て、城を死守した。永福の父は、奥村(現在の奥町)に住んだとされ、永福の誕生は奥村であったともされる。

10 くろ だ 黒田城跡



木曽川町黒田字
古城

野府川を北の備えとし、東には後の岐阜街道をおさえる。主郭には天守に相当する櫓もあったと推定される。土佐20万石の大名に出世した山内一豊はこの城で生まれたとされ、弘治3年(1557)に敵襲を受け13歳でこの城を離れている。山内氏の退去後は、織田広良、和田氏、澤井雄重、一柳直盛などが入城した。

12 は せ がわ ひで かず 長谷川秀一公旧居跡



北方町北方字
宮浦

織田信長の側近で数々の奉行職や検使などを務めた。天正10年(1582)、徳川家康一行は信長の本拠地安土を訪れた。秀一は接待を命じられ、上方見物の案内も務めた。しかし、堺滞在中に、信長が本能寺で襲われたため、家康らと伊賀越えて熱田まで逃れた。

13 こう みょう じ 光明寺城跡



光明寺字本郷屋敷

織田信長の家臣、神戸伯耆守の築城、後に信長の馬廻衆の山田半兵衛が在城。伯耆守は、永禄12年(1569)伊勢国司北畠具教父子の大河内城を攻めた夜戦で討死にしている。

15 こう だ 河田城跡



浅井町河田字
神明社

天正12年(1584)、小牧長久手合戦の時、羽柴(後の豊臣)秀吉が小牧山の織田信雄・徳川家康連合軍に対して構築した城砦の1つ。この城は、秀吉と織田信雄の和議成立の際、犬山城とともに秀吉方の城として残された。

17 しも な ら 下奈良城跡



春明字北本郷

天正12年(1584)、小牧長久手合戦の時に、一時的に築かれた城の一つ。羽柴(後の豊臣)秀吉が犬山城から楽田城へと移り、この城を最右翼として織田信雄・徳川家康連合軍に対抗した。両軍の間に講和が成立すると、破却され、河田城に移されたとされる。

19 あさ の 浅野公園



浅野字八剣

浅野氏の居館。豊臣政権の五奉行を務めた浅野長政は、城主長勝の婿養子にあたる。大正期の公園化工事で、堀や土塁が造成され、「浅野長政公宅址碑」も建立された。公園内には、1,000株ものつつじが植栽され、4月下旬〜5月初旬には、つつじ祭が開催される。また、称々の碑や珍木「ひとつばたご」の大木もある。

14 おお の 大野城跡



浅井町大野字
東堤外

織田信長の召しを受けた大野伊賀守がこの地に移り住み、以後代々が居住したという。小牧長久手合戦では、秀吉軍が入城したが、堀の掘削をめぐり大野氏と争いになったという。

16 わ ぐり 若栗神社八幡宮



島村字南裏山

天文11年(1542)、島村に生まれた兼松正吉は、織田信長に仕え、桶狭間の初陣以来、幾多の戦いに加わり武功を重ねた。社伝によると慶長10年(1605)、兼松正吉が武運長久祈願のため、若栗天神に八幡宮を合祀したという。

18 うき の 浮野古戦場跡



千秋町浮野字海道

永禄元年(1558)清洲城主織田信長は岩倉攻略をはかり、これに対し岩倉城主織田伊勢守信安が応戦、ここに信長勢に加担する犬山城主織田信清が加わり、三軍の総勢6千余騎が浮野原で戦ったという。浮荊首塚には、戦死者の首が埋められたと伝承される。

20 しげ よし 重吉城跡



丹陽町重吉字城戸

尾藤源内重吉の城と伝えられる。天正12年(1584)、小牧長久手合戦の時、織田信雄・徳川家康連合軍の拠点城郭として維持され、清洲と小牧を結ぶ連絡路を確保するための役割を担っていた。

1 いち の みや 一宮城跡



本町3丁目

織田信長に仕えた関十郎右衛門が築いたとされ、真清田神社の門前から続く街道沿いに位置した。堀が巡っていたというが、江戸時代には埋め立てられ田になったという。県道尾張一宮停車場線沿い北側の三菱東京UFJ銀行一宮支店の玄関西側敷地内に石碑がある。

3 なか しま 中島城跡



萩原町中島字城趾

尾張の在庁官人として、鎌倉時代以来大介職を世襲した中島氏の居館と考えられる。その子孫が中島蔵人として居城したが、特定の個人を指すのではなく、この家が官名蔵人を世襲的に用いたものである。室町時代末期の戦乱で廃城になったと伝えられる。

2 かり やす か 苅安賀城跡



大和町苅安賀字
火口上

浅井新八郎が街道筋の賑わいを見せる苅安賀に築城した。新八郎は、山内一豊の父盛豊の従弟で、流浪時代の一豊も縁を頼って寄寓したという。新八郎の子 長時は、織田信雄の家老を務めたが、秀吉の策謀のため信雄に殺され、城も落とされた。

4 よし ぶじ 吉藤城跡



明地字南古城

織田信長に仕えた遠藤三郎右衛門の居城と伝えられる。小牧長久手合戦では、織田軍は吉藤城に信長の弟である織田長益(有楽斎如庵)、滝川雄利、飯田半兵衛を派遣し、兵糧・弾薬を運んで防備を固めている。